

未収金目標及び具体取組内容の一覧

所属:港区役所

[illegible]

未収金目標及び具体取組内容調書

所属	港区	担当・事業所名	協働まちづくり推進課	債権整理番号(3ケタ)	港001	債権区分	私債権	債権名	附設会館ネーミングライツ契約料
----	----	---------	------------	-------------	------	------	-----	-----	-----------------

1. 令和6年度の修正目標（＝未収金残高目標）の達成状況 … いずれかの記号を入力 ※修正目標 … 当年度当初に、前年度末の未収金残高の結果を踏まえて、当初目標を修正したもの

(例) 令和7年度修正目標＝令和7年度当初に、令和6年度末の未収金残高の結果を踏まえて、令和7年度当初目標を修正したもの

過年度	A	現年度	A	合計(過年度＋現年度)	A
-----	---	-----	---	-------------	---

「A」… 目標達成、「B1」… 取組みは予定通り実施したが目標は未達、「B2」… 取組みを予定通り実施できず目標も未達、「－」… 当年度中に新規発生した債権のため、前年度時点で目標未設定

2. 未収金の推移（実績及び目標） … 色付け箇所のみ、百円単位を四捨五入した、千円単位の整数

(単位:千円)

過年度分										現年度分							合計		
前年度からの 調定繰越額	年度中の 調定減少額	調定額	徴収額	不納欠損額	整理額	徴収率	整理率	未収金残高		調定額	徴収額	不納欠損額	整理額	徴収率	整理率	未収金残高	徴収率	整理率	未収金残高
ア ＝前年度ケ"	イ ＝ア－ウ (▲＝増加を表す)	ウ	エ	オ	カ ＝イ＋エ＋オ	キ ＝エ÷ウ	ク ＝カ÷ア	ケ ＝ウ÷(エ＋オ)		ウ'	エ'	オ'	カ' ＝エ'＋オ'	キ' ＝エ'÷ウ'	ク' ＝カ'÷ウ'	ケ' ＝ウ'÷ (エ'＋オ')	キ" ＝(エ＋エ') ÷(ウ＋ウ')	ク" ＝(カ＋カ') ÷(ア＋ウ')	ケ" ＝ケ＋ケ'
A 令和4年度 実績	0	0	0	0	0	—	—	0		946	0	0	0	0.0%	0.0%	946	0.0%	0.0%	946
B 令和5年度 実績	946	0	946	0	0	0.0%	0.0%	946		0	0	0	0	—	—	0	0.0%	0.0%	946
C 令和6年度 修正目標	946	0	946	0	0	0.0%	0.0%	946		0	0	0	0	—	—	0	0.0%	0.0%	946
D 令和6年度 実績	946	0	946	0	0	0.0%	0.0%	946		0	0	0	0	—	—	0	0.0%	0.0%	946
E 令和7年度 計画	0	0	0	0	0	—	—	0		0	0	0	0	—	—	0	—	—	0
F 令和7年度 目標	946	0	946	0	0	0.0%	0.0%	946		0	0	0	0	—	—	0	0.0%	0.0%	946

(参考)未収金残高の中期目標

令和7年度末	0	令和8年度末	0	令和9年度末	0
--------	---	--------	---	--------	---

3. 令和6年度を取組実績・課題・改善策など

令和6年度を取組実績
通年 官報を確認し法人が破産していないかを確認した(＝破産は確認されていない) 令和6年5月 再度督促状発布 令和7年3月 法人登記の再取得(現況確認)
課題と改善策
【課題】 ・相手方との接触がとれない ・会社は破産していない 【改善策】 ・官報の確認を継続し、破産の確認等を行いつつ、架電、訪問及び手紙などで督促を行う。 ・引き続き債権管理・回収アドバイザーへ相談等を行いながら、適切に債権管理・回収を実施する。

4. 令和7年度を取組内容 … 「1. 令和6年度の修正目標(＝未収金残高目標)の達成状況」及び「3. 令和6年度を取組内容の検証など」の内容を踏まえて記載

未収金の解消に向けた取組
・官報の確認を継続し、破産の確認等を行いつつ、架電、訪問及び手紙などで督促を行う。 ・引き続き債権管理・回収アドバイザーへ相談等を行いながら、適切に債権管理・回収を実施する。 令和7年7月予定 再度督促状発布 令和8年3月予定 法人登記の再取得(現況確認)
未収金の発生抑制に向けた取組
・別途ネーミングライツパートナー協定を結んだ場合、納期限を厳守するように伝えたとともに、納期限を超える場合、密に督促を行い、新たな未収金を発生させない。

5. 令和6年度決算見込における未収金実績の状況（区分別の未収債権の件数・未収金残高、債務者数）

… 未収債権の件数及び債務者数については、色付け箇所のみ、整数で入力。未収金残高については、色付け箇所のみ、百円単位を四捨五入した、千円単位の整数で入力

(残高の単位:千円)

分類	回収債権										整理債権								合計
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨		⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯		
	滞納発生直後のもの (督促状未送付のもの)	督促状送付後、各種催告中又は 納付交渉中のもの	督促状送付後、各種処分に向けて、財産調査中又は 行方不明等所在など調査中又は 個人債務者が死亡したため、相続人調査中のもの	【強制公】 差押え後、換価手続中 又は 交付要求中のもの 【非・私】 債務名義取得のため法的手続中のもの	【強制公】 差押え後、換価手続中 又は 換価予定のもの 【非・私】 債務名義の取得後、強制執行中又は 強制執行予定のもの	換価猶予等又は は履行延期の特約等又は分 納誓約により、分割納付中であ り、現在の分割納付額で、10年以 内の完納見込があるもの	換価猶予等又は は履行延期の特約等又は分 納誓約により、分割納付中だ が、現在の分割納付額では、完納 まで10年以上要するもの	換価猶予等又は は履行延期の特約等により、 債務者の資力回復を待つた め、納付を猶予(期限延長)して いるもの	換価猶予等又は は履行延期の特約等又は分 納誓約を行ったが、分割納付の履 行が滞り、再度、納付交渉 中のもの		【強制公】 差押えを行ったが、換価見込 のないもの 又は 換価済だが、未収金が残 り、回収見込みがないもの 【非・私】 債務名義を取得したが、債務 者の財産少額により、強制執行 見込のないもの	所在など調査後なお行方不明等 又は 相続人調査後なお相続人未確 定若しくは相続人不存在に 至れていないもの	債務者の代理人から債務整理 の委任通知が届いているもの 又は 債務者が破産手続中のもの	債務者が破産 免責決定を受けたもの	【強制公】 法に基づく滞納処分の停止の 決議を行っているもの 【非・私】 法に基づく徴収停止の決議を 行っているもの	【強制公】 債務者が生活困窮中だが、債 権の特性上、停止の決議を行 えないもの 【非・私】 債務者が無資力が、納付交 渉に応じず、履行延期の特約 等を行えないもの	消滅時効期間が経過している もの		残高の合計 = 上記2のD (令6実績) のケ及びケ’ ※ 残高の数字の 一致を確認の上、提出。 ただし四捨五入に伴う不一致の 場合は除く。 (その場合は、不一致となった 合計欄のセルを黄色く塗りつぶ して提出)
過年度	未収債権 の件数		1							1								0	1
	未収金 残高		946							946								0	946
現年度	未収債権 の件数		0							0								0	0
	未収金 残高		0							0								0	0

【未収債権の件数及び債務者数並びに分類の考え方】
① 未収債権の件数は、原則、測定件数とする。測定をまとめて行っている場合は、事実上の債権の件数とする。(例:毎月の定期給付債権の場合、1人の債務者につき、1年間で12件の債権が発生していることとなる。)
② 1つの債権に、連帯債務者や連帯保証人が設定されている場合であっても、調査票上、未収債権の件数は1件、債務者数は1人と考え、3の表は、未収債権の状況の進捗が最も進んでいる者の状況で分類する。
③ 債務者が死亡した場合で、相続人が複数いる場合、相続割合に従い、債務が相続される(債務が分割して相続される)が、調査票上、未収債権の件数は1件、債務者数は1人と考える。
それぞれの相続人で、未収債権の状況が異なっている場合、3の表は、相続された債務額の最も大きい相続人の状況で分類する。同額の場合は、未収債権の状況の進捗が最も進んでいる者の状況で分類する。
※ 未収債権の進捗状況 … ① → ② → ③ ⇒ 回収債権: ④ → ⑤ 又は ⑥ 又は ⑦ 又は ⑧ 又は ⑨ / 整理債権: { ⑩ 又は ⑪ 又は (⑫ → ⑬) } → ⑭ 又は ⑮ → ⑯

令和6年度 決算見込に おける 債務者数	1	令和6年度決算見込における 未収債権の件数(過年度+現年度)	1
		令和6年度決算見込における 未収金残高(過年度+現年度) = 上記2のD(令6実績)のケ’	946